

ホーム春秋

▼来年4月から中学校で武道が必修になる。1―2年は柔道、剣道、相撲のうちから選択する。3年は武道と球技のどちらかを選択するようだ。保健体育の標準授業時間が、今の90時間から105時間にふえる。2年までは年間13時間、3年は最大26時間になる。

▼県立旭丘高に入学して柔道を始め、名古屋大柔道部の主将、名大医学部教授のとき柔道部長・師範だった愛知県がんセンター総長の二村雄次さんは、名外科医であるとともに、柔道一

筋の人でもある。二村さんは中高生の柔道の事故を防ぐ対策を提言している(学生會会報11年Ⅲ号)。

▼「安全な柔道の授業を設計するには、まず基礎体力、とくに頭部外傷を予防するためには首の筋肉をつ

授業で教える柔道

け、受け身を行う際に絶対に頭部を打撲しないようにする必要があります」

「初心者がまず安全な柔道を習うには、受け身のほかに寝技を中心に習うことが推奨されます」

▼愛知教育大学の内田良講師による学校での柔道事

故の詳細な研究を、二村先生は引用している。「1983年から2009年までの27年間に、独立行政法人日本スポーツ振興センターに報告され、死亡見舞金が支払われた中学、高校生の柔道による死亡事故は11

0人(中学生37人、高校生73人)にもほる」

▼柔道の経験の豊富な人材が指導すれば、柔道は決して危険な競技ではない。心身をきたえる絶好のスポーツである。旭丘高柔道場にこの3月「力必達」の額が掲げられた。近代柔道の

創始者嘉納治五郎の言葉で「何事も一生懸命努めれば必ず成し遂げられる」という意味という。

▼5月12日には、名古屋大柔道場の改修工事が終わって、記念に大阪大との対抗戦があった。老朽化が進んでいたが、壁と天井を耐震化し、屋上に太陽光発電パネルが設置された。名大柔道部は、勝沼精蔵学長が顧問をされたこともある伝統ある古い部である。

▼中学高校生諸君は、名大合格を目標に勉強に取り組み、合格したら柔道部に入ったらどうだろう。よい先輩がいる。きっと満足できるだろう。